

生き物とのふれあいを通して

(15)

野菜を育てる

陽光保育園は庭が狭く、植物を植えられるスペースはほんのわずかなのでですが、毎年野菜を作っています。今年も、ピーマン、プチトマト、なすの苗や根をとりのぞきます。虫がでてきて驚いてみたり、おしゃべりしながらの土いじりはにぎやか。それを屋上まで運んで干します。

六月に植えてから、毎朝水をあげるのが子どもたちの仕事。われ先にとじようろを取りにいき、あふれんばかりに水を注ぎます。「トマトの花つて何色?」植えたばかりのころ聞いてくる子ども。「誰か知っている?」と聞いたら子どもたちは誰も知らない。

水をやりながら毎日ながめる。花が咲き実をつけはじめる。「赤ちゃんトマトができるよ」と誰かが見つけて声をあげる。するとまわりの子どもももどれどれと見てくる。「わー! ちっちゅ」「緑色だね」「赤くなつたら食べられるんだよ」「まだとつたらだめだよね」。とっても大事なもののようにそーっとさわってみる。子どもたちの愛情が注がれた野菜た

ちは、夏の間にぐんぐん育つて次々に実り収穫されます。ハサミでパチンとつやつやのなすを探つて、「とれたよ

をプランターに植えました。またのなすを薄切りにして、塩もみして一口ずつ食べる。「うまい」「おいしい」「もっと食べたい」。いつもは野菜が苦手な子もむしやむしや食べている。東京の小さな保育園の小さなプランターフラット、今年はピーマンが五〇個以上採れました。それとともに子どもたちの心の実りも大きいものでした。

アゲハの幼虫

植え込みの小さなみかんの木には毎年アゲハの幼虫がいっぱい誕生します。みかんの葉を食べてどんどん大きくなり、今年もたくさんの中ヨウが巣立つていいきました。

その幼虫を何匹かもらって帰ったGちゃん。みかんの葉を持ち帰つては幼虫にあげて、その食べる姿をあきるこだつた。大切に育てた幼虫もやがてさなぎになり中ヨウになつて巣立つていきます。保育園でも飼つていた幼虫が巣立つていきました。Gちゃんもそんなチヨウの姿を楽しみに家のさなぎをながめていたところ、ある日家に帰ると

年アゲハの幼虫がいつぱい誕生します。みかんの葉を食べてどんどん大きくなり、今年もたくさんの中ヨウが巣立つていいきました。Gちゃんの葉を持ち帰つては幼虫にあげて、その食べる姿をあきるこだつた。大切に育てた幼虫もやがてさなぎになり中ヨウになつて巣立つていきます。保育園でも飼つていた幼虫が巣立つていきました。Gちゃんもそんなチヨウの姿を楽しみに家のさなぎをながめていたところ、ある日家に帰ると

小動物とのふれあい



ザリガニの水槽をのぞきこむ子どもたち

その分は東板橋公園のこども動物園に出かけます。山羊や羊にさわったり、モルモットをだっこしたり、楽しいひとときです。

ザリガニ

ザリガニは、Mくんが川でとつてきました。ザリガニをさわることもない子どもも多く、水の入れ替えをするときは大騒ぎになります。

誰がザリガニを飼育ケースから出すのか、「やりたい、やりたい」というKくんは田舎でザリガニとりを存分に樂しみます。Tくん、Rくんもやりとができます。Tくん、Rくんもやりたいけれど「ちよつとまつて」をくりかえし、しばらくザリガニのハサミと格闘した末に「やつたぞ」と充実した顔つきでみんなに見せびらかします。

いつも眺めているYちゃんに「やつがいます。金魚めだか、ザリガニ、かたつむり、スズムシと小さいものがいます。金魚めだか、ザリガニ、かたつむり、スズムシと小さいものがいます。金魚めだか、ザリガニ、かたつむりをながめているうちに、泣かりますが、子どもたちはその姿をよく見ています。朝、登園時に泣いていた1歳児も金魚にえさをやるうちに、かたつむりをながめているうちに、泣きやんでいます。スズムシは、子どもたちが昼夜する頃になると「りーん、りーん」とい音色を聞かせてくれます。部屋が暗くなると、鳴くのです。

子どもたちはその姿をよく見ています。朝、登園時に泣いていた1歳児も金魚にえさをやるうちに、かたつむりをながめているうちに、泣きやんでいます。スズムシは、子どもたちが昼夜する頃になると「りーん、りーん」とい音色を聞かせてくれます。部屋が暗くなると、鳴くのです。

子育て1分メモ

玉ねぎに泣かされない法

玉ねぎは、アルカリ性でビタミンB₁、B₂、Cなどを豊富に含み、貯蔵がきくので家庭には必ずある便利な野菜。

和・洋・中華風どんな料理にも使え、

家庭には必ずある便利な野菜。

がめていたところ、

ある日家に帰ると

飼育ケースが風で

床に落ちていて、

さなぎが全滅して

いました。さなぎ

はあるのです。

悲しくて、しばら

く泣いたGちゃん

でした。

スズムシ

ずっと好きな音色を聞かせてくれていたスズムシ。餌をあげたり、霧吹きで土を湿らせたりと何ヵ月もくりかえしてきました。子どもたちは

驚いていたけれど、これも自然の姿。期待して、今は静かに部屋の片隅に置いてあります。また来年、子どもに何を見せてくれるのか楽しみです。

な赤ちゃんザリガニ。「いるいる」「ちっちやい!」母ザリガニの腹の下から離れて出てくる小さな命を見つめる子どもの眼。今は、そーっと見るだけだけれど、これから大きくなっていくザリガニは子どもたちに何を見せてくれるでしょうか。生きる様を見つめる子どもたち。

全体懇談会――テーマは絵本

十一月十六日に開かれた全体懇談会のテーマは「絵本の読み聞かせ」。0歳児から5歳児まで、子どもの発達に即して読み聞かせしたい絵本も変わっていきます。子育てのなかで、いかに絵本が重要な位置を占めるかを、みんなで学びました。



改めて絵本について学んだ全体懇談会

お父さんの出番です!



朝は眠い。でも息ぬきしながらがんばる

「パパ起きてよ!」「いつまで寝てんだよ!」……おつともう起きる時間か、時計は八時三十分。もうすでにママはいない。

陽光保育園に行きはじめで半年、朝霞市の私立保育園で登園拒否だった健太が、自分から私を起こし、保育園へ行こうと言った。今でも信じられないことです。共働きのため、父は送り、母は迎えの係、我が家です。

朝いつも寝ている私は、朝食を知らない。保育園に行つてから、子供に聞く。朝食くらいはいっしょに食べようと思うのだが、涙が勝ち。ママ、優歩、健太、スマン、と思う暇なく目が閉じる。

夜十一時頃仕事から帰る。もう全員寝てる。なんか寂しいなと思いつたがそこは子供。いがいに早く覚えるものです。インベーダー、ファイナルファンタジーetc、父としても楽しいです。子供たちより熱中しています。いけません。夜ふかしが過ぎて、ますます朝起きられません。

親として父として、子供に接したいと思いつつも、食事すら毎日いつも遊んでやろうと思い、最近ファミコンを入手した。まだ難しいかなと思いつたがそこは子供。いがいに早く覚えるものです。インベーダー、ファイナルファンタジーetc、父としても楽しいです。子供たちより熱中しています。いけません。夜ふかしが過ぎて、ますます朝起きられません。

日々が始まる。ああ眠い。が、それもしない。いつの日か、忘れられ、ジャマにされ、無視されるオヤジになつた自分が目にうかぶ。

……「早く保育園に行こうよ」「いつまで寝てんだよ」。また、日常の毎日、頑張っているママ、お姉さんになつた優歩、元気に保育園に行けるようになつた健太。感謝しています。ありがとうございます。自ら勝手なパパは、今日も飲んで帰ります。よろしく。

(5歳児・優歩、4歳児・健太の父 関久)



野菜の水やりは子どもたちの楽しい仕事

野菜の水やりは子どもたちの楽しい仕事

野菜の水やりは子どもたちの楽しい仕事